



GLOBAL
NEXTLEADERS
FORUM

2021年度報告書

2022年5月

グローバルネクストリーダーズフォーラム学生本部



目次

1 GNLF について

1-1 会頭挨拶

1-2 理念

1-3 運営メンバー

1-4 スポンサー

2 GNLF2022 概要

2-1 本会議概要

2-2 参加大学一覧

2-3 議題・構成

3 GNLF2022 本会議

3-1 本会議日程

3-2 開会式

3-3 第1部

3-4 第2部

3-5 第3部

3-6 第4部

3-7 文化交流会

3-8 閉会式

3-9 参加者アンケート

4 収支報告

4-1 収入

4-2 支出

5 連絡先

1 GNLF について

1-1 会頭挨拶

日頃よりグローバル・ネクスト・リーダーズ・フォーラム（GNLF）に多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年度の GNLF は、2021 年 3 月に新体制にて発足し、1 年間活動を続けてまいりました。この度、今年度の事業が無事に終了し、来年度に向けた新たな体制へと移行する運びとなりましたことをここにご報告します。

GNLF は次世代のグローバル・リーダーの育成を目的に据え、世界各国の学生・教授と日本の学生が会して現代の国際問題を多角的な視点から議論する本会議を開催してまいりました。そして 11 回目の開催を迎えた今年度のフォーラムでは、「教育」をテーマに据え、7 つの国と地域より集った学生が議論を行いました。皆様のご協力がこうした弊団体の活動を可能にしております。メンバーを代表し心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、2021 年 8 月頃に第 11 回本会議をオンラインで開催することを決定しました。その時点で先の読めない状況であったこと、本会議中に感染者が出るなどした際の対応が難しいことなどを考慮しての判断でした。以降、昨年度の反省を生かしてオンラインの本会議の準備を進めて参りました。オンライン会議では進んで発言することが大変であるため、昨年度と同様にグループディスカッションを多くしました。加えて、昨年度はお互いの考えを共有する時間を十分取ることができていなかったため、各グループの考えを全体に共有する時間を増やしています。また、本会議の大きな魅力であった深い交流による信頼関係の構築を実現するため、本会議後も交流が続けられるように slack チャンネルを作成しました。早速 3 月中旬から 2022 年度の参加者と運営メンバーの交流が行われています。入念な準備と皆様のご協力のおかげで、本会議では各国の学生や教授が、国際問題について様々な角度から議論を深めるとともに多様な価値観や文化に触れることができたと自負しております。

一方で、活動形態の変化が弊団体に大きな影響を及ぼしていることも事実です。オンラインで活動するようになってから 2 年が経ち、運営メンバー間の信頼関係の構築やモチベーションの維持が難しくなりました。ミーティングをオンラインで行うことで一か所に集合する手間が省けると考え、対面での活動が可能な時期もオンラインでの活動を継続しました。しかし、結果として運営メンバー間の信頼関係の構築を一層難しくしてしまいました。また、本会議までの期間が長く、メンバー間の個人的な関係性無しではモチベーションの維持が難しいことも浮き彫りになっています。そこで、来年度は対面での活動を再開します。本会議の準備のみではなく、メンバーの発表スキルや本会議のテーマへの理解の向上を図

1 GNLF について

る活動を行います。そして休日には今年度の本会議参加者の slack チャンネルを利用して、本来の国際交流団体の目的の一つである海外の学生との英語での交流を行います。

最後になりますが、会頭の座は今月をもってメンバーの中尾充希によって引き継がれます。新会頭の下、活動を見直しながら国際交流の場の提供を続けていく所存です。引き続き温かいご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2022 年 3 月

2021 年度会頭 長満 和樹

1 GNLF について

1-2 理念

[団体理念]

グローバルリーダーを創出する。グローバルリーダーとは、国際社会という枠組みにおいて、団体としての方向性を決定し仲間に共有し、集団としての行動を統合し統御できる人物である、と私たちは考えます。リーダー育成の活動の軸として、GNLF では毎年東京で本会議を開催します。本会議とは、GNLF の日本の運営メンバーが主催する年一度の国際学生会議です。

[目的]

他者理解による自己像の認識を本会議の目的とし、それを通じてグローバルリーダーの創出を達成したいと考えております。他者と深く交流し他者を理解することは、自分を知る契機となります。他人が自分をどのように捉えるかは人によって異なるため、価値観やバックグラウンドの異なる人と接することで、他人の自分に対する評価を知ることができます。この学びから、他人に信頼されるにはどのような言動を起こせば良いのか、またどのように自分の長所を活かし短所を克服することで他人に信頼されるかを知ることができます。他人から信頼を得ることはリーダーに不可欠な要素の 1 つです。このような他者理解の機会を本会議という形で経験することでグローバルリーダーに必要な他人からの信頼感の得方を身につけることができます。

[特徴]

GNLF の本会議の特徴は 2 点あります。

○ 多国間の枠組みである。

政治的、経済的影響力の大小に関わらず様々な地域の様々な規模の国の参加者を募ることで、会議での前提が先進国視点、大国視点に寄らないよう綿密に参加国が選定されています。一般的に先進国からの参加者に偏ってしまうことの多い国際会議の中で、グローバル・ネクストリーダーズ・フォーラムは他の国際会議と一線を画しており、国の規模にかかわらず様々な国の参加者と交流することができます。

○ 1 つのテーマを多角的に考察するやり方を学ぶことができる。

毎年 1 回開催される本会議において 1 つのテーマを決定し、そのテーマにそくしたセッションを行うことで様々な角度から 1 つのテーマについて考察することができます。そのテーマについての見識を深めることができるだけでなく、1 つのテーマが与えられそれについて考察を加えていく際、どのようにそのテーマへの学びを深めることができるのかという学びの過程を経験することで、今後の学びでも大いに活用できます。

1 GNLF について

1-3 運営メンバー

[顧問]

遠藤 貢（東京大学大学院総合文化研究科教授）

[第 12 期（2021 年度執行代）メンバー]

大谷 朗子（総務 / 東京大学 2 年）

長満 和樹（会頭 / 東京大学 2 年）

村上 友哉（財務 / 東京大学 2 年）

横山 未侑（渉外 / 東京大学 2 年）

[第 11 期メンバー]

亀田 義勝（東京大学 3 年）

河野 妃南（東京大学 3 年）

渋谷 拓海（東京大学 4 年）

関根 友里（東京大学 3 年）

谷口 朋（東京大学 4 年）

田村 裕加（東京大学 3 年）

六川 雅英（東京大学 3 年）

和久井 亮（広報 / 東京大学 3 年）

[第 13 期メンバー]

阿部 遥奈（東京大学 1 年）

河上 結香（慶應義塾大学 1 年）

清水 海杜（東京大学 1 年）

須賀 円香（東京農業大学 2 年）

中尾 充希（東京大学 2 年）

中野 まなみ（津田塾大学 1 年）

鋒山 凌也（東京大学 1 年）

前川 舟（東京大学大学院修士 1 年）

森川 力斗（東京大学 1 年）

森田 輝（東京大学 1 年）

1 GNLF について

1-4 スポンサー

[協賛]



[寄付]



2 GNLF2022 概要

2-1 本会議概要

[期間]

2022 年 2 月 5 日～2022 年 2 月 27 日

[開催地]

オンライン

[主催]

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部

[参加国・地域]

日本、オーストリア、スロバキア、チュニジア、パキスタン、ハンガリー、メキシコ

[参加人数]

運営メンバー：14 名

日本の学生参加者：2 名

海外出身の学生参加者：24 名

一部参加国の教員：2 名（スロバキア・メキシコ）

合計：42 名

2-2 参加大学一覧

Georgia State University

Institute of Business Administration Karachi

International Christian University

Janos Selye University

The higher institute of management of Tunis

The National Autonomous University of Mexico (UNAM)

University of Okayama

University of Pannonia

University of Tunis

University of Vienna

2-3 議題・構成

[議題設定理由]

大学で教授から専門的な知識を与えられることはもちろん、家庭内でちょっとしたことを親に注意されることも教育の一つと言えます。つまり、全ての人は教育を受けて育ちます。また、教育には多くの側面があり、多くの分野から関心が集まります。例えば、日本行動分析学会が心理学的観点から体罰に反対する声明を出したりしています。すなわち、「教育」は様々な国から集まった様々な分野を専攻する人が話し合うのにふさわしい議題と言えます。同時に、教育は国によって知識の共有から思想の伝播まで幅広く活用され、それに伴って経済的、社会的問題を抱えているなど私たちの人生から切り離すことができない存在です。そこで、他国と比較しながら日本の教育の在り方を議論するために今年度は「教育」をテーマにしました。

[狙い]

教育というテーマを通じて教育の社会的・経済的な立ち位置を理解すると同時に教育に、付随する問題をどのような観点と価値観から議論するのかについて想定し、今後の教育における先駆者となりうる確固たる新しい価値観と意見を組織内での教育活動によって生み出されることを期待した。

[本会議の構成]

「教育」について話し合うべきと目される内容を以下の4つのパートに分割し、複数の側面から教育のあり方に迫ることを可能にした。

第1部 教育方法

近年、日本では教育内容の変革が議論されています。その背景には、変化する社会の中で既存の教育方法を問い直し、新時代を切り開く人材を育てる教育が求められていることが挙げられています。「AIに負けない」人材の育成やグローバル化に伴う英語教育の前倒しなどがその一例として挙げられるでしょう。

一方でただ教育方法を変えるだけでは問題は解決されません。新型コロナウイルスの感染拡大の中、日本ではオンライン授業が導入されました。オンライン化によって、科目によっては対面授業よりも学習効果が高く、また不登校だった学生も授業に参加しやすくなるなどのメリットが見いだされました。しかし、実施以前から懸念されていた学生間のコミュニケーション減少などのデメリットに対してはいまだに効果的な解決策が見いだされていません。このように教育は変革して終わりではなく、議論を重ね、改良していかなければなりません。

このパートでは様々な国から学生を迎え、積極的な議論を通じて多様な視点を取り入れることで、これからの教育のあり方に対するより現実的かつ建設的な意見の構築を目指しました。

2 GNLF2022 概要

第2部 家庭内教育

教育とは子供に学力を身につけさせることだけではなく、礼儀や道徳を教えたり、人格を形成する過程は親の手にかかっています。そのため、家庭内での教育は教育の重要な部分を占め、その分悩みが多く生じます。

このパートでは親が子供にどの程度干渉すべきかなどの難解な問題について、具体的な例などを用いて一定の解答を共有することを目標としました。

第3部 教育制度

高等教育を享受することを望む学生が避けて通れないものが入試です。学ぶ大学や学部はその後の進路を大きく左右するものになるため、大学入試は特に重要視されます。学校側は、優秀な学生やその学校にふさわしい個性を持った学生を正確に見極めるために入試問題に趣向を凝らします。

しかし、これらはあくまでも日本における入試であって、国によっては入試の制度や入試に対する考え方そのものが違うことが十分に考えられます。

このパートでは、各国の入試制度と各国の学生の入試に対する考え方を比較し、最も適切と考えられる入試のあり方を模索しました。

第4部 教育格差

現在、教育機会の格差が多くの原因によって生まれてしまっています。まず、家庭の経済的な理由によって希望する進学先に進めない、塾に通えないので経済的に余裕のある家の子供に比べて学力が劣ってしまうなどの経済的な格差があります。国によっては国内に高いレベルの教育を受けられる環境が無かったり、同じ国内でも地域によっては教育環境が不十分であるなどの地域格差もあります。また、女性は勉強しなくても良いという考えを持つ人がいるなどの性別による格差もあります。

このパートでは様々な国における格差の現状を共有した上で、格差是正のためにできることを探しました。

3 GNLF2022 本会議

3-1 本会議日程

フォーラムは以下のような日程で各日日本時間午後9時から11時にかけて実施した。

2月5日(土)	前半：開会式、後半：第1部
2月6日(日)	第1部
2月12日(土)	第2部
2月13日(日)	前半：第2部、後半：文化交流会1
2月19日(土)	第3部
2月20日(日)	前半：第3部、後半：文化交流会2
2月26日(土)	第4部
2月27日(日)	前半：第4部、後半：閉会式

3-2 開会式

本会議の開会に先立ち、開会式を行った。内容は以下の通りである。

- ・会頭挨拶（会頭・長満和樹）
- ・プログラム概要の説明（財務・村上友哉）
- ・運営陣の自己紹介
- ・アイスブレイク

昨年に引き続き本会議はオンライン開催となりましたが、会頭は、オンライン開催ならではの利点や難しさに触れたあと、オンラインでも失われることのない国際的に意見を交わす場の魅力や重要性について述べました。

運営陣の自己紹介は、PowerPoint で作ったスライドを画面共有しながら行われた。次に行われたアイスブレイクの際に話題になると考え、自分の専攻や趣味について話した。

アイスブレイクではブレイクアウトルーム機能を用いて数人のグループを作り、親睦を深めた。一定時間でメンバーを入れ替えるなど、できるだけたくさんの参加者と交流できるよう工夫した。



3 GNLF2022 本会議

3-3 第1部

[目的]

このパートでは積極的な議論を通じて多様な視点を取り入れることで、これからの教育のあり方に対するより現実的かつ建設的な意見の構築を目指した。

会議の最初のセッションにあたるため、具体的、実践的テーマを扱うことで参加者の会議に対するモチベーションを高めることを想定した。

[実施内容]

1日目

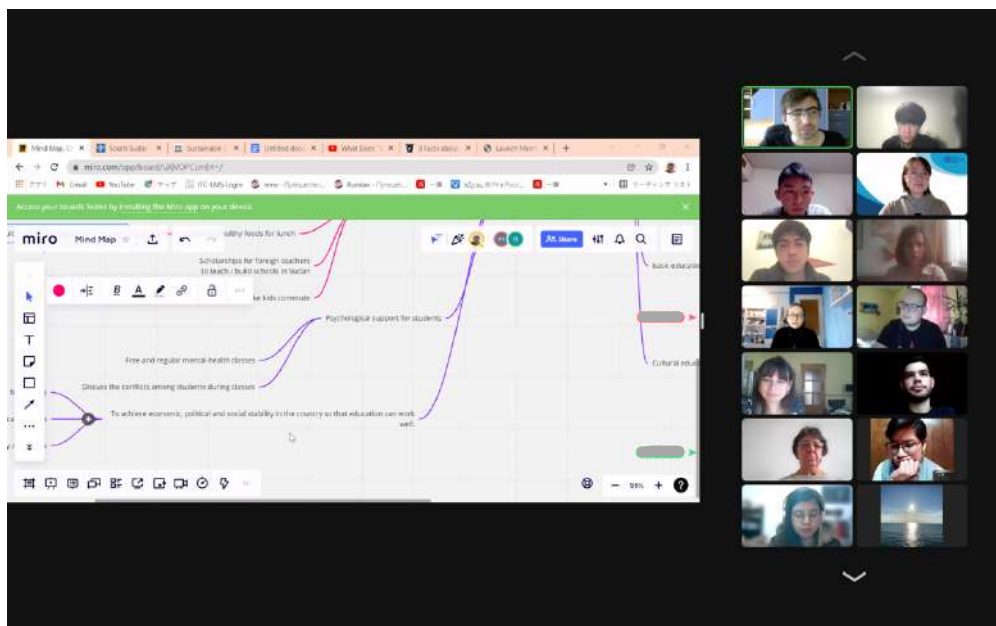
最初に、リカレント教育の重要性、日本で行われている普及のための工夫について発表した。その後、「社会人が高等教育(大学や専門学校)で学びなおしをしやすいように、行政と教育機関は何ができるか」という話題で話し合った。

次に日本の学校についてのプレゼンを行い、翌日自分たちの理想の学校を作るために活かせるような発表をした。内容としては日本の学校の部活動や学校制度、塾について。質疑応答の時間も設けた。

2日目

理想の学校を作ろう

MIRO を用いて理想の学校について話し合った。最後は発表の時間も設けた。



3 GNLF2022 本会議

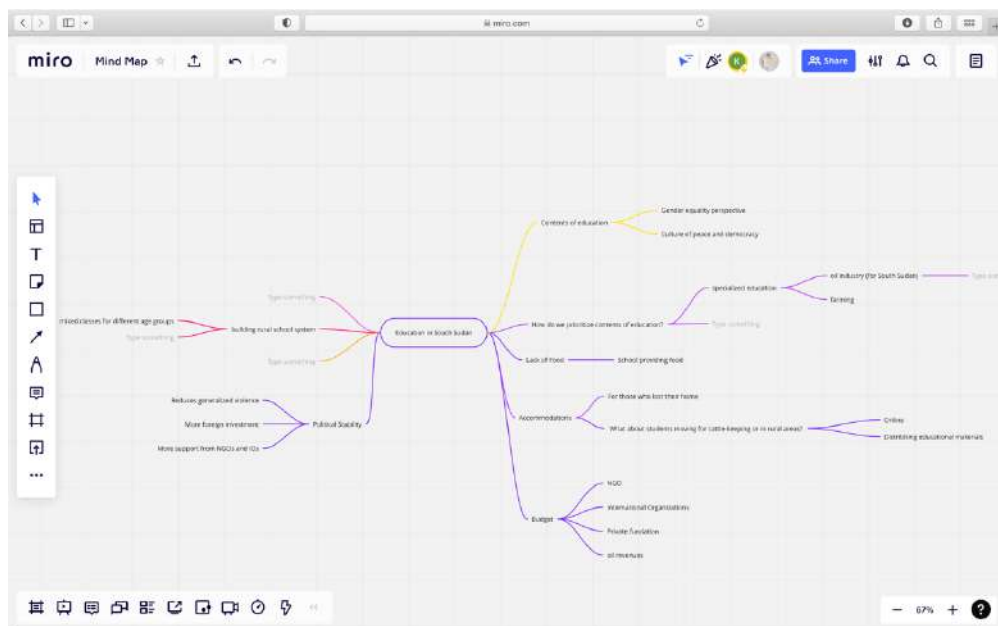
[手応えと反省]

最初のセッションにしては各人が議論に参加しており、成果は十分にあったといえる。議論をするためにブレイクアウトルームに分ける際、設問ごとにメンバーを変えたことで、参加者同士の交流が促進できたと考えられる。参加者同士での議論は円滑に進めることができたといえるが、議論に入る前段階で 2 つの科学技術に関する情報を説明した際、事前準備に余裕がなかったために司会者の英語が詰まることがあった。セッション後の参加者のアンケートでも一定の評価があることから、総合的にはある程度の手応えはあったといえるだろう。

改善点

- ・休憩に入ったところで、雑談のためのブレイクアウトルームを作るのが遅れた。また作った後、人が多すぎてまともに雑談できなかった。
- ・作業の説明が不十分で参加者を混乱させたかもしれない。
- ・フォーラムの後の雑談に入る前に最後まで残る人に権限を譲渡するべきだった。

参加者の方の熱に負けないようにこちらも相応の準備をするべき。全てのプログラム通しまでとはいかなくても何回か予行練習の機会があったほうが良かった。MIRO 等の使うツールの説明はしっかりと行いプログラムの中で話し合う内容についても事前に例を用いながらしっかりと説明したほうが良かった。



3-4 第2部

[実施内容・手応えと反省]

本会議3, 4日目の家庭内教育のパート2では、最初にお金を払って親が子供に通わせる習い事について取り扱った。具体的なテーマとしては、①どんな習い事をさせるのが良いか②そもそも親が子供に習い事をさせるのは良いことなのか③それぞれの国や地域ではどのような習い事がメジャーで、各参加者はどのような経験をしてきたか、といった点を取り扱った。私が参加したブレイクアウトルームでは、ハンガリーでは学校が終業したあとに部活や習い事を行うのは主流ではなく、インドアでゲームをしたり自分の時間を大切にすることが多い、といった意見や、パキスタンにも日本と同じセンター試験のようなテストがあり、大学進学の可能性を増やすためにそれにむかって注力する人が多いといった意見がだされた。全体のディスカッションでは、そもそも子供に習い事を強制させるのはよくないのではないかといった意見が主流で、日本国内の状況との違いを実感することとなった。

4日目には、「ジェンダー教育」と題して、家庭内教育でジェンダー平等の観点に基づいた教育をどう実行するか考えた。最初に、なぜジェンダー平等の観点が家庭内教育に必要なプレゼンテーションを行い説明した。具体的には、人間は平均で4歳から自身の生物学的性と性自認を自覚するという研究結果、子どもたちは常に社会から性に関する偏った情報にさらされるという事実から、必要性を論じた。当然、参加者は子供がいない方が大多数だったので、その点は想像を巡らすように頼んだ。

ジェンダー教育の議論の目標としては、「自分の子供が性の社会規範を受けて傷つかないこと」、「自分の子供が他人の子供を傷つけないこと」、「旧来的な性の社会規範の世代間伝播を断ち切ること」を掲げた。

話をする中で、メキシコ、ハンガリーでは性の二元論が未だに強いことがわかった。やはり、彼らより一つ年代が上の世代以上は、性に関して保守的な様子だった。議論の結論としては、多少論争的な議題だったために、議論中に「自分を嫌いな人間はいつでもいて、それを忍耐するのが常なのに、なぜ性の規範にだけ訂正を求めるのか?」と疑問に持つ方もいた。



3 GNLF2022 本会議

3-5 第3部

[目的]

Week3 に行われた Part3 のディスカッションテーマは「教育制度」であった。

国家にはそれぞれ国民を教育する制度が整備されており、大半の学生はその制度の中で義務教育を受け、自らの進路を定めて人によっては進学し、そして教育課程を終える。一見同じように見える各国の教育制度は、しかし改めて観察すると数多くの相違点があり、それぞれにメリットもデメリットも存在する。この Part では、それら教育制度に関わる様々な特徴や課題について議論することを目的とした。我々はこの Part を 3 つの section に分け、参加者に順を追って議論してもらえよう設計を試みた。

[実施内容・手応えと反省]

section1 では、参加者の多くが大学生であることを踏まえて、高等教育の制度の中でも、特に入学選抜制度に主眼を置いて議論を行った。このセクションがパートの冒頭であることを踏まえ、参加者同士が自身の経験について共有することで、他国の高等教育機関における入学選抜制度についての知見を深めるとともに、参加者同士の交流を図った。また、中盤以降では、実際の日本の入試問題を題材として提供し、参加者がその資料の内容を基にして、より良い入学選抜制度のあり方について議論する機会を設けた。一方で、時間の都合上、資料を読み込む時間を十分に確保できなかったこともあり、やや早急な議論になってしまった面があった。ただ、ディスカッションの様子を見る限りでは、このセクションの段階から、入学選抜制度を切り口に、自国の教育制度全体を俯瞰する意見も出始めていた点は収穫であった。

The screenshot shows a Google Meet interface. On the left, a Google Docs document titled "GNLF2022 Part3 Section1 Discussion worksheet for Room1" is open. The document content includes:

[Discussion 2]
There are two steps for this Discussion 2.

(1) Please pay a visit to the link below to see the question booklet of the uniform test in Japan and browse the content to grasp the general trend.
https://edu.chunichi.co.jp/site_home/center/pdf/2022English_a.pdf

※Some instructions in the booklet may be provided in Japanese. If you have a difficulty in understanding them, feel free to ask any GNLF members for help!

- All questions are of the multiple-choice type and candidates are required to choose the single most suitable option unless any extra instructions are given.
- 「問」 means "question" in English!

(2) Then, please have a discussion about...

- Do you think that these two abilities are suitable for the university entrance exams?
- Do you think that these questions on the booklet are suitable for measuring these two abilities?

Note: Two abilities here mean:

- Practical skills in real-life communication in English.
- The ability to comprehend the key points or the very piece of information you need from the texts.

At the bottom of the document, it says: **Please write down your ideas as follows below.**

On the right side of the screen, there is a vertical stack of five video feeds showing participants in the meeting.

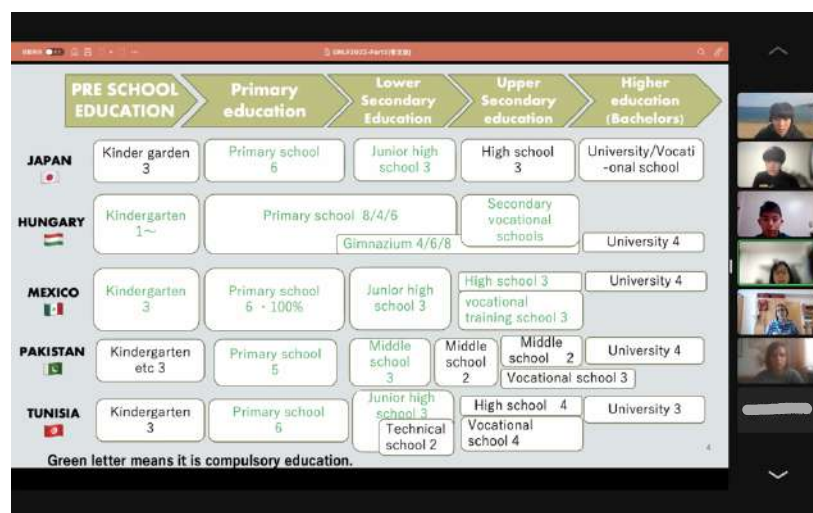
3 GNLF2022 本会議

section2 では、「教育制度と社会との関わり」をテーマに議論した。国家的制度として設計された教育制度の枠組みを経て社会に排出される人材が、その後社会の中心となっていくことを鑑みると教育制度は社会の多くの側面に重大な影響を及ぼしていることは明らかである。各国の参加者の教育制度を共有しその差異や共通点を見出したのち、高等教育の位置付け、職業及び技術教育の捉え方、義務教育の期間、の3つの観点からいくつかのグループに分かれて議論を行った。いずれの国においても、職業及び技術教育が社会においてあまり高いステータスとして捉えられていないことは興味深い傾向であった。その上で、上記3つの観点においては教育制度はいかにあるべきか、という抽象度を拡大した議論を行った。ここで、グループごとにひとつの結論を導き出すことは少々困難で構成の改善が求められると感じたが、参加者が国による差異及び共通点を認識し、その発見をもとに議論を深化させることができていた点はひとつの成果であった。

section3 では、「教育制度の国家的機能」をトピックとし、教育制度を個人的視点ではなく国家的視点から捉え直すことを試みた。通常個人にとっての最適化がメイントピックとなる「教育」というテーマにおいて、国家が国民という総体に対して期待する機能、という全く新たな観点から「教育」を捉え、教育制度を設計する立場から議論することで、教育の持つ意義や機能を再確認してもらうことを目的とした。

また議論が論争的になるよう、ミッションとして取えて様々な価値観の順位付けを課した。これにより、単なる各人の意見の羅列に終わるのではなく、価値観の対立を顕在化させ、それぞれの価値観がなぜ重要か、その理由まで深く議論させることができた。一方、それらの比較に必要な評価基準について熟慮する時間が取れず、初期の異なる価値観どうしの対立を合理的な議論を経て合意へと昇華させる、という目標は完全に達成したとは言い難かった。

とはいえ総括としては、section1 から3にかけて視野を段階的に広げるように設計したことで、各参加者にとって、当事者意識を保ちつつ教育制度について多様な観点から捉え直す良い機会になったと考えている。



3-6 第4部

[目的]

国内でも国外でも「教育格差」が存在しているということは認知されている。そして「教育格差」を解消するためにはその現状と原因を分析する必要があるが、プログラム開始前の私達にはそれができていなかった。そのため、このパートでは各国における教育格差の現状を共有することで「知識」としてしか知らなかった教育格差の現状をよりリアルに捉えることと、その原因の追究に焦点を当てることにした。

[実施内容・手応えと反省]

前半は教育の経済格差について議論した。まず導入として、ハーバード大学の教育格差に関するビデオを視聴し、教育格差について議論する意義を確認した。次に、経済格差が子供の享受する教育機会に与える影響について論理的に議論するため、経済格差と教育に関するいくつかのデータを紹介した。具体的には、国民総所得とその国の子供が教育を受ける年数の間の相関がそこまで無いのに対して、各国の収入格差と教育格差には強い相関があることを示し、このようになる要因を考えた。最後に、親の収入と学位号の取得率の相関(アメリカ)や親の収入とテストの点数の相関(日本)などを提示し、教育格差を是正するために取るべき方法について議論を行った。

後半は地域格差について議論した。議論する際に混乱が生じないように、これから議論する地域格差をしっかりと定義し全体で共有している。まず都市部と郊外での教育環境や情報量の格差について考えた。各個人が教育格差を実感した経験や各国の現状について学んだことを共有し、教育格差の最も重大な要因を議論した。次に、先進国と発展途上国の間の教育格差について考えた。CNBCの教育格差問題に関するレポートを視聴し、教育格差の改善のために政府や国際機関のできることを考えた。

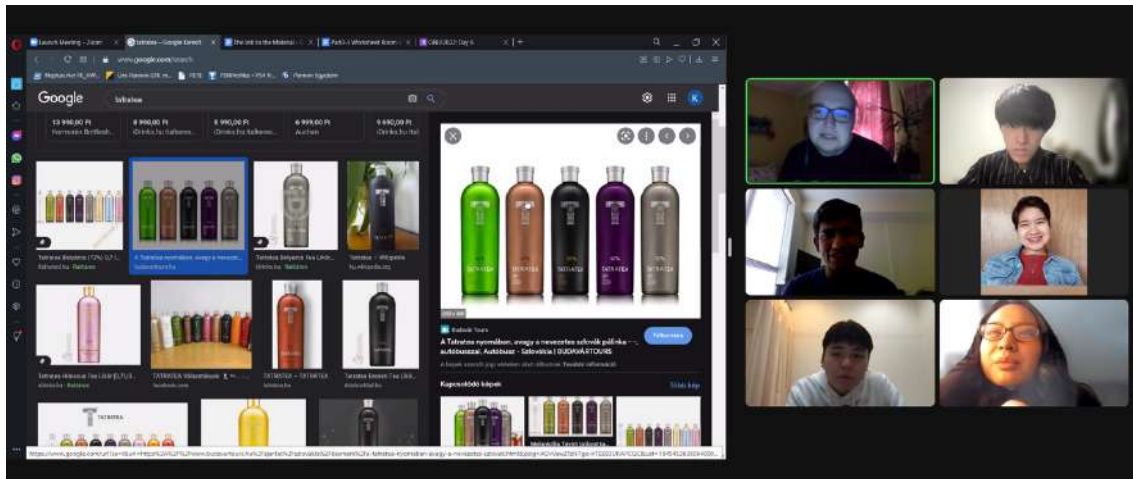
漠然とした議論に終始しないように制約を設けて議論を積み上げていけるよう意識して準備を行った。各参加者は提示した多くのデータや資料などに基づき意見を述べる努力をしてくれた。しかし、それでもなお各個人の持つ感覚に頼った漠然とした議論になってしまう場面もあった。また、全てのデータの指し示している内容を把握しきれていたわけではないように思える。他のパートにも言えることだが、やはり運営側が事前により深くテーマについて勉強し、必要な学習を参加者に求めていく必要がある。

3 GNLF2022 本会議

3-7 文化交流会

[文化交流会 1]

本会議 4 日目には文化交流会を実施した。参加者は 5~6 人ずつブレイクアウトルームに分かれ、15~20 分間自由に会話を楽しんだ。これを 2 回、メンバーを変えて行ったことで、参加者同士も打ち解けたようだった。各ブレイクアウトルームでは各国の食事や趣味、旅行など幅広い話題で盛り上がりを見せた。ある学生が、参加予定だった海外プログラムがコロナ禍で中止になったというエピソードを紹介すると、満足に海外での活動ができないことへのやるせなさに、他の参加者も深く共感しているようだった。一連の会話を聞く中で、オンライン開催であるとはいえ国際交流の機会を提供できたことの意義を感じ、今後とも自覚をもって本会議開催を継続していきたいと運営チームも気持ちを新たにした。

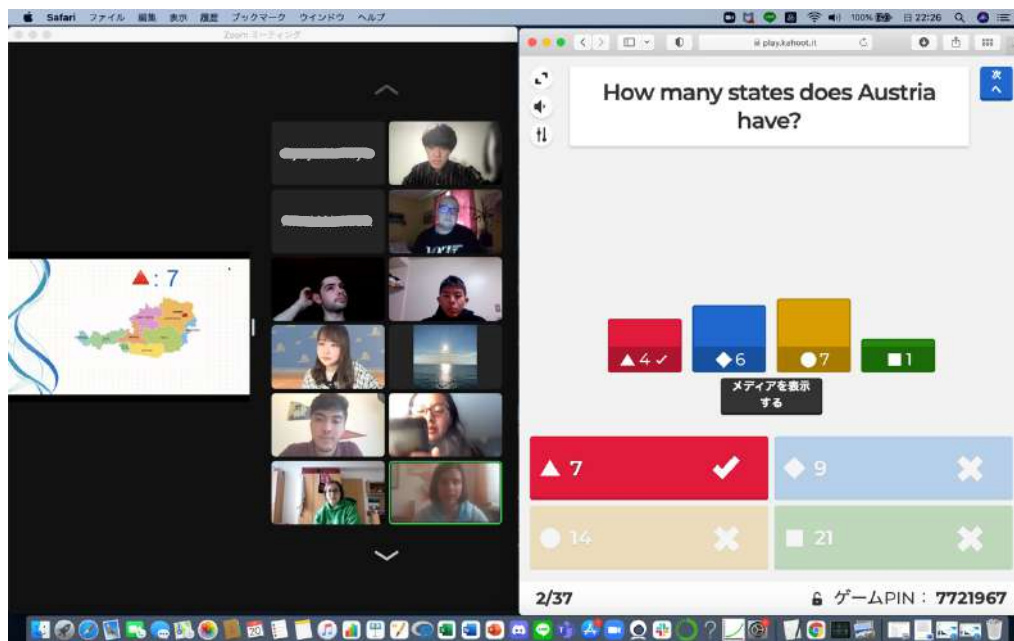


[文化交流会 2]

参加者同士がお互いの文化を理解し、国際交流を深めるためにクイズ大会を実施した。参加者が自国の文化に関する問題を持ち寄り、アプリを用いて解答・集計を行なった。問題は皆がよく知するような知識から、知らないような知識まで、そのジャンルも多岐に渡っておりどれも工夫のされた興味深いものだった。チャットを通じて参加者間の交流も盛り上がりしており、オンラインであっても交流を深めてもらうことができたと感じた。

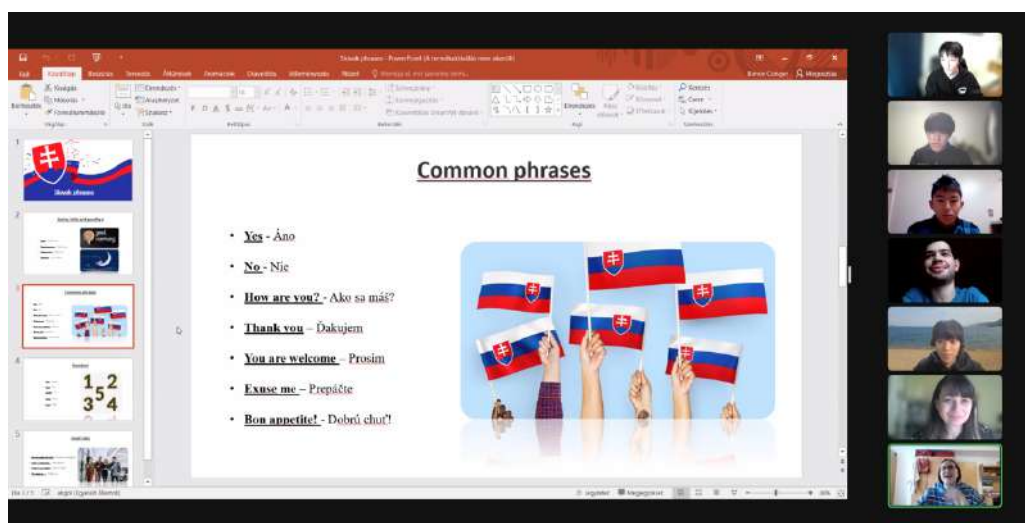
上位の参加者には賞品を送ることとしているが、アプリのシステム上誰が何位にいるかを参加者がゲーム中に見られないため、これらが見られると盛り上がりが増すように感じた。社会問題への議論と、このような楽しめるイベントを組み合わせることで、参加者に楽しく GNLF に参加して頂き、さらに国際交流を深めるという本来の意義を改めて実感することができる時間となった。

3 GNLF2022 本会議



[言語紹介]

本会議開催期間中、スケジュールの冒頭に言語紹介の時間を設けた。この企画では、参加者に5分程度の母国語の紹介を依頼し、3人の参加者の協力を得た。これに弊団体会頭の長満による日本語の紹介を加えて、計4回実施することができた。取り上げられた言語は、ハンガリー語、スロバキア語、メキシカンスペイン語、日本語である。各発表者は忙しい中でも手の込んだスライドを用意して発表に臨んでおり、国際交流に対する意識の高さが伺えた。発表者が例文を読み上げると、他の参加者もミュートを解除して発音を練習するなど、和気あいあいとした雰囲気だった。複雑なテーマについて長時間にわたって意見を交わすディスカッションとは対照的に、言語紹介は気楽な交流の時間となった。この点でメリハリのある本会議につながり、有意義な企画であった。



3 GNLF2022 本会議

3-8 閉会式

8日間の本会議を締めくくる閉会式は、お力添えを頂いた東京大学駒場友の会の事務局運営委員のおひとりでいらっしゃる受田宏之先生ご臨席のもとで実施した。内容は以下の通りである。

- ・会頭挨拶（会頭・長満和樹）
- ・本会議の総括（総務・大谷朗子）
- ・参加者のスピーチ
- ・教授のご講評
- ・記念品紹介（次期会頭・中尾充希）
- ・スポンサー紹介（財務・村上友哉）

会頭は、コロナ禍の中でも、世界中から集った異なるバックグラウンドを持つ学生たちが、明確な答えの無い問題について深く考え意見を交換する機会を創出できたことへの喜びと感謝を述べた。

本会議の総括では、各週の議論の内容を振り返った上で、参加者の皆さんのおかげで教育というテーマについて実りある議論ができたことへの感謝を述べた。

参加者のスピーチと教授のご講評では、運営メンバーの準備のおかげで、コロナ禍においても世界中の学生と議論を交わす機会を享受できたことへの感謝と労いの言葉をもらった。

記念品紹介では、本会議後に修了証と記念品として手ぬぐいが贈られる旨が伝えられた。

スポンサー紹介では、今年度の本会議を開催する上で多大なお力添えを頂いた三菱商事株式会社と東大駒場友の会を紹介し、感謝を述べた。



3-9 参加者アンケート

本会議中の参加者アンケートの回答を一部紹介する。

[第 1 部感想]

・ I really liked it! I enjoyed a lot getting to talk to other people from different countries. I also enjoyed learning about different perspectives on how to improve recurrent education in our countries. It is nice to know all their opinions because that lets us know what is happening in our countries and what problems we think are more serious than others.

・ I enjoyed today's discussions about upgrading Sudan's education system and developing an imaginary dream school. It broadened my mind about the number of different aspects connected to education (mental health, sustainability, soft skills, gender perspective). I was happy to meet amazing new people, I am more than grateful for this opportunity. Thank you!

[第 2 部感想]

・ I really like to share our opinions about children's teaching, and how get a better relationship between children and parents. I think this topic was so useful because we have maybe in our future one or two or more babies, and we must think about how we can raise our children better. So, thank you for this topic. I enjoyed it. :))

・ I was inspired by today's topics very much. I not only enjoyed the exchange about gender education, but I also heard heart-touching stories and experiences from my peers from different cultural backgrounds. Today's forum was a heartwarming experience and a lesson on lifelong learning to accept others and myself.

[第 3 部感想]

・ It was very interesting to learn about the different forms of admission to universities in different countries, and to know what was sought in students, such as having a good understanding of texts, knowing how to solve problems, having logical thinking or having basic knowledge of a second or even a third language. In addition, I had not thought much about how basic education such as kindergarten is managed in other countries, as well as its importance, since it is the ideal space for a boy or girl to begin to socialize and develop basic skills such as identifying colors or letters. In general, I think it was a very interesting and enjoyable discussion, and from which I learned a lot.

・ My favorite part, was the culture exchange quiz, was very funny and educative. I really enjoy share information about our countries and take a test to know who was the best, unfortunately I wasn't ha-ha, but I think was an excellent form to learn about the history, gastronomy, and culture to the others.

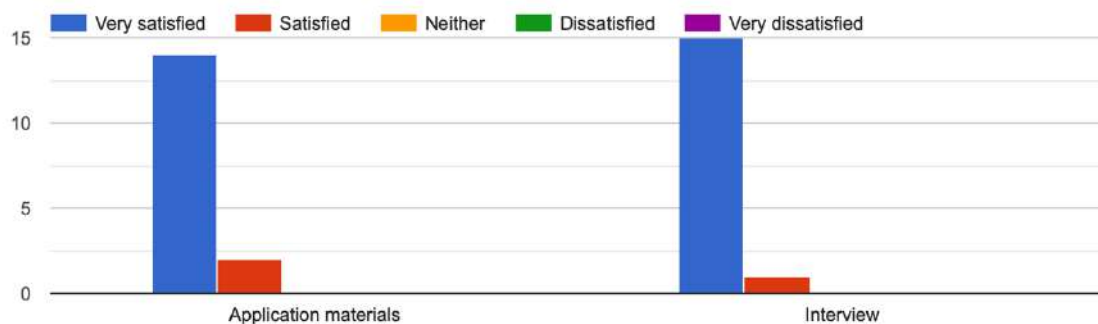
3 GNLF2022 本会議

[第 4 部感想]

・ I really liked the sessions. We discussed about education disparity and focused on economic inequality. It was nice to hear other perspectives about this, since there are participants who are from developed and developing countries, so that widens the views on this theme and helped us to have a larger perspective about inequality in every country.

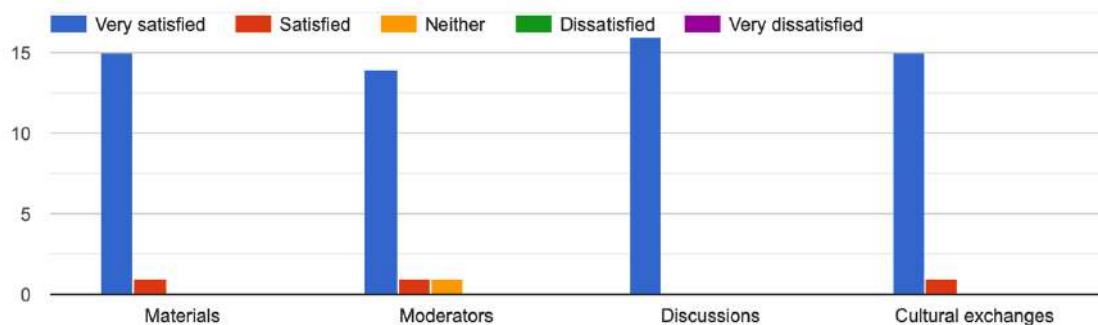
[本会議全体感想]

Please rate your satisfaction before the forum



・ Despite being a high-level forum, the acceptance process was very accessible, considering the conditions of the current context. Without a doubt, the members of the management team knew how to handle the situation regarding admission to the forum.

Please rate your satisfaction during the forum



・ The topic of education was extremely interesting, it shed light on many problems and things to improve. Presentations and online materials were also helpful. I can't mention anything negative about the forum.

4 収支報告

4-1 収入

収入の部			
参加者負担			
参加国	参加費	人数（現状）	収入(現状)
	¥0		¥0
小計	56名（うち参加者約30名）		¥0
助成金収入			
財団名			収入
	小計		¥0
企業協賛収入			
企業名			収入
	小計		¥0
寄付金収入			
団体名			収入
一般社団法人 東大駒場友の会			¥100,000
三菱商事株式会社			¥100,000
	小計		¥200,000
雑収入			
項目			収入
利息(2021年8月、2022年2月)			¥4
	小計		¥4
	当期収入合計(A)		¥200,004
	前期繰越収支差額		¥105,645
	収入合計(B)		¥305,649

4 収支報告

4-2 支出

支出の部				
研修会場費				
項目		単価	日数	費用
会議室		¥0	0	¥0
	小計			¥0
企画費				
項目		単価	人数	費用
修了記念品		¥700	50	¥35,000
企画景品			3	¥7,788
	小計			¥42,788
雑費				
項目				費用
印刷費				¥20,000
講師謝礼				¥0
サーバー維持費				¥9,701
通信費(送料、郵送費)				¥19,264
印刷費				¥2,857
事務用品				¥1,130
手数料				¥330
	小計			¥53,282
当期支出合計(C)		¥96,070		
当期収支差額 (A)－(C)			¥103,934	
来期繰越収支差額 (B)－(C)			¥209,579	

5 連絡先

本報告書に関するお問い合わせは下記連絡先までお寄せ下さい。

[学生本部所在地]

〒113-0033

東京都文京区本郷 4-1-6 アトラスビル 6 階 IBIC 本郷内

[公式ホームページ]

<http://jp.g-nextleaders.net>

[メールアドレス]

gnlf-hq@g-nextleaders.net (学生本部)

[団体 Facebook ページ]

<https://www.facebook.com/GlobalNextLeadersForum/>

[団体 Twitter]

<https://twitter.com/gnlfjapan>